

第5章 今後の事業推進に向けて

1 今後の課題

(1) エコミュージアムの構築と運営に係る課題

ア 市民・関連団体の積極的参画

エコミュージアム構築の成否は、その概念にも規定されるとおり、市民や関連団体等の地域住民の参画が鍵となることから、市民や関連団体が主体的かつ積極的に各衛星施設（サテライト）の運営や活用に参画することができる、参画しやすい体制を整備し、気運の醸成に努める必要があります。

体制整備及び気運の醸成にあたっては、エコミュージアムの考え方の普及はもちろん、地域アイデンティティーが広く共有されるとともに、エコミュージアムの実践が地域活動の具現化であることを市民一人ひとりが実感できることが重要であることから、鎌倉市はその観点に立った取組を進めます。

イ 社寺の理解の促進と積極的協力の確保

鎌倉の歴史的遺産の中核をなすのは言うまでもなく、源頼朝が幕府を開いて以来、盛んに建立された神社仏閣であり、信仰の対象・場として人々から尊重され、また現在も生きた遺産として活動を継続し、鎌倉の文化の創造と発展の一翼を担っています。

こうした歴史的な経緯からしても、鎌倉におけるエコミュージアムの構築には、市内に所在する社寺にご理解をいただき、地域の一員としてその運営にも衛星施設（サテライト）の一つとして参画いただく等、積極的にご協力いただくことが重要であり、市民・社寺の皆様が、長い歴史の中で共に守ってきた風土を、大切に次世代へと継承するためにも、鎌倉市として積極的なアプローチを図ります。

ウ 市民・関連団体・社寺及び行政による運営組織の設置と役割分担

これらの課題解決に向けた施策を効果的に進めるためには、市民や関連団体、社寺等の関係者が集い、議論を重ねながら実践していくことが効果的であると考えられます。

鎌倉市は、こうした組織の構築と運営の核としてその役割を果たし、エコミュージアムの主体である地域住民の方々を中心とする参画者の連携

を図ります。

エ 史跡整備

サテライト候補である史跡について、適切に保存管理を行うとともに、積極的に活用するための整備を着実に実施し、地域の歴史文化の学びや発見に資することを目指します。

(2) 博物館機能の充実

ア 積極的な調査研究の展開

第4章で記したとおり、博物館の発揮すべき機能としては、一般的に収集機能・保管機能・調査研究機能・教育普及機能の大きく4つが求められます。これらのうち他の3つの機能を支えるとともに、博物館が博物館として存在する根本的機能が調査研究機能です。

鎌倉の歴史文化に関して学術的な調査研究を進め、その成果を市民に伝えていくこと、鎌倉に特徴的な資料の保管に関する調査研究成果を活用して、資料の適切な保管を図ることは博物館として当然のことです。

また、鎌倉の歴史文化に関する学術的研究は古くから行われてきましたが、エコミュージアムの中核施設（コア）として、今後も文献史学・考古学・民俗学及び仏教美術史等の人文系科学並びに自然史系科学の連携による学際的研究等を通じて、積極的に学術情報の発信に努めていかなければなりません。

イ 資料の適切な保存管理

鎌倉には、生きた遺産である神社仏閣に由来する仏像等の彫刻や絵画、鎌倉地域の多くが中世都市を中心とする埋蔵文化財包蔵地であることに起因する豊富な出土品等、他地域にはない質と量を誇る資料が存在しますが、これらは鎌倉の博物館活動を支える重要な財産です。

資料は、調査研究や展示等の教育普及活動といった博物館活動の源泉であり、それらを有効に活用するために保存状態を良好に保ちながら、将来に引き継いでいかなければならないので、資料の質や状態に見合った適切な保存管理環境を備えた収蔵施設を整備する必要があります。

2 事業スケジュール

本構想を、令和2年度（2020年度）を開始年度とする第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画へ位置づけます。

令和2年度（2020年度）に本構想で取り上げられた諸事項について、より詳細に検討し、エコミュージアムの構築に向けた中核施設（コア）、衛星施設（サテライト）及び発見の小径（ディスカバリートレイル）を具体的に設定する等を内容とする基本計画を策定します。

令和3年度（2021年度）には、上記基本計画に基づき、エコミュージアムの具体的な運営方法や、市民・関連団体・社寺・行政による運営組織の設置等を内容とする実施計画を策定します。

令和4年度（2022年度）以降に、順次実施計画を実行していきます。